

① 繊維部会 2008年の回顧と2009年の展望

昨年8月のシンポジウムでは2008年上期の繊維業界を天気に例えれば「晴れのち曇り」と発表致しましたが、その後の世界金融危機の影響や夏のない異常気象の影響で下期の繊維業界は「曇りのち嵐」となりました。

それでは、いつものように綿花、綿糸、合繊、薄地織物、紳士婦人服地、ファスナーの順でご説明致します。

② 国際綿花

2008年の回顧：昨年のNY綿花相場の推移を見て頂きます。2月～3月に大豆、トウモロコシの高騰で綿花も最高値をつけましたが、9月のリーマン・ショック以降、急落して11月には3月と比較しますと半値以下の40セントを切る最安値を記録するような、かつてない荒れた綿花相場の1年となりました。

③ 2009年については本年1月12日に米農務省が発表した世界綿花需給予想とリーマン・ショック以前の2008年7月に発表した数字での比較で見たいと思います。

この半年で大きく変わったことは①510万俵（約111万トン）の生産減、②1070万俵（約233万トン）の消費減、③それに伴う620万俵（135万トン）の季末在庫増という大変大きな数字の変化が特徴となっています。

今後マーケットは実需をより反映したものになると思われませんが、世界綿花消費の約70%を占める中国、インド、パキスタンの消費の落込みに注目、世界経済が回復に転じるまで、NY綿花市場も当面弱含みで推移するものと思われれます。

④ 国内綿花

2008年の国内綿花生産は160万トンという史上最高の生産高となりました。綿作地は10年前まではパラナ・サンパウロがメインでしたが今ではマットグロッソ・バイアがメインでこの2州で約83%の綿が作られています。今年の品質は問題含みでしたが、価格は年を通して低位安定で政府が決めた最低価格以下となりました。

2009年の綿花生産は農業融資の減少、他の有利な作物への切替もあり生産は126万トン前季比約20%強の大幅な減産予測となっています。農業融資不足から肥料の節約が伝えられており、品質的にも懸念材料です。世界金融不安が続く中、先行き不透明な状態が今しばらく続くと見えています。

⑤ 国内綿糸

2008年は好調な国内経済に後押しされてまずまずの成績が残せた上半期に比べ、下半期は10月より急速に悪化、在庫増、売値の低下、生産調整等を強いられる紡績が続出。

この原因としては

*秋冬物衣料マーケットの不調

*輸入衣料、輸入綿糸の急増

*異素材の増加

*サンタカタリーナ州（繊維の一大産地）の大洪水・・・が挙げられます。

2009年の展望、消費不況のあおりで国内の荷動きは今ひとつ活気が無く、当面、輸出も視野に入れての我慢の年となる。

⑥ 綿糸貿易

2008年はレアル高に伴い、輸入は急増、輸出は激減、輸出は前年対比59.8%下回り、逆に輸入は212.4%増で3倍以上に急増した。綿糸貿易は2007年以降、貿易収支は赤字隣、赤字幅は増大傾向にあります。輸入綿糸の約8割はインド品となっています。但し、9月以降のレアル安で輸入は激減、新規成約は進んでいない。

2009年の展望、現在の為替水準（R\$2.3/ドル）が持続すれば、輸入綿糸は国内綿糸と比較して価格競争力が無いことから輸入は減少しなくても、増加もしないであろう。

⑦ 合織&化織

*ドル安レアル高の影響で輸出は価格競争力を失い、輸入は増加。

*国内生産は合織は前年対比微増、化織は40%の大幅減産となった。

2009年の展望、為替の関係で輸出入とも減少、国内生産は合織は08年と同水準、化織は更に減少と見ています。

⑧ 薄地織物

織物全体としてはレアル高の影響で輸出減・輸入増であった。

綿織物は価格競争力をなくした輸出は減少、輸入は天然繊維志向もあり大幅に増加、国内生産・販売共に順調であったが金融危機以降、大型店の引取りの延期やキャンセルが出たことで年末の在庫は増加した。

2009年の展望、輸出は相手国の景気が悪く減少、輸入も合織の需要減で減少とみる。

国内販売はユニフォーム用途は企業業績の悪化で減少、一般衣料用は輸入品の減少でよくなると見ています。

⑨ 紳士婦人服地

上半期の母の日、下半期のクリスマス商戦共に良く、国内消費の増加に引っ張られ小売、アパレル共10～15%の売上増となった模様。輸入品の業界では9月までは石油高騰を含めアジア諸国のコストアップをレアル高でカバーしながら売上を伸ばした。10月からはドルが40%以上、急上昇し、状況は一変した。ドルの上昇分を価格に10～20%しか転嫁出来ておらず、その後の新規商談は止まったままで年を越した。

2009年の展望、金融危機の影響で失業者が増加し、国内消費がどのように変化するか予測不可能。ドル高で製品輸入が減れば国内生産が増えるはず。石油価格が下がり繊維製品の価格も下がり始めた。中国では繊維関連の工場が潰れ始めた。いろいろな要素が国内市場にどのように影響するのか分からない。

⑩ ファスナー

2008年の回顧、ファスナー市場は好調なブラジル経済に下支えされ9月までは全般的に好調。第4四半期には小売の低調、先行き見通しの悪化などにより市況は予想以上に低下。通年では差し引き前年並み。分野別ではジャケット・ブーツ向けが好調、ジーンズ向けは前年並み、婦人服・紳士ズボン向けは低調。

2009年の展望、世界的な金融危機の影響を受け、上半期の市況はかなり厳しいものと予測。非耐久消費財である衣料などの消費は割りと早めの回復が期待できること、現在の為替が継続すれば衣料輸入の抑制、ジーンズ、ブーツなどの輸出競争力の回復も見込まれることから、輸

出の再開、増加が期待できることで、下半期からの市況は回復すると予測する。

⑩ 繊維業界のまとめとして4項目挙げてみました。

- * 為替の動向に注目：中国からの繊維製品・インドからの綿糸などの輸入の抑制。今まで価格競争力の無かった綿糸・衣料品のヨーロッパや近隣諸国への輸出の再開。
- * 原綿動向に注目：紡績コストの約60%を占める原綿の作柄、品質、20%を超える減産の影響。
- * コストアップ懸念：インフレにスライドして上がる電気代、労務費などによる採算悪化への対応。
- * 繊維製品の国内消費に注目：給与や最低賃金のアップ、ボルサ・ファミリアの継続、1億9千万人のブラジル国民の楽観的性格で消費が減速しないことに期待します。